

## 島根県からウスルリモンハナバチの初採集記録

大對桂一<sup>1)</sup>・前田泰生<sup>2)</sup>・宮永龍一<sup>1)</sup>

### New Record of *Thyreus centrimalcula* from Shimane Prefecture, South-Western Honshu, Japan (Hymenoptera, Apidae)

By Keiichi OTSUI, Yasuo MAETA and Ryoichi MIYANAGA

**Abstract** A cleptoparasitic bee, *Thyreus centrimalcula* was first recorded from Chiburi island, Oki, Shimane Prefecture.

**Key words:** Cleptoparasite, *Thyreus*.

ウスルリモンハナバチ *Thyreus centrimalcula* (PÉREZ) はシロスジフトハナバチ *Amegilla quadrifasciata* (VILLERS), ルリモンハナバチ *T. decorus* (SMITH) はスジボソフトハナバチ *A. florea* (SMITH) の労働寄生蜂ではないかと推定されている (MAETA *et al.*, 1996, 2015; 前田, 2010). 前種は日本のほか中国, 朝鮮半島, 台湾にも分布する (LIEFTINCK, 1962; 多田内・村尾 (編), 2014). 日本国内では希少種でもある. これまで岩手 (LIEFTINCK, 1962); 栃木 (LIEFTINCK, 1962), 千葉 (伊東, 2003; 須田, 2001), 兵庫 (LIEFTINCK, 1962; SUGIURA & GOMI, 1991), 岡山 (原田, 1987, 1993; 小橋, 2004; 伊藤, 未発表), 広島 (田口, 1986; 幾留・中村, 1995); 山口 (田中・田中, 2008), 香川 (伊藤, 2008, 未発表), 福岡 (LIEFTINCK, 1962; 村尾, 2009), 長崎 (LIEFTINCK, 1962), 鹿児島 (長瀬, 1981) から採集記録がある. いずれも大半の個体は海浜で採集されたものである. 千葉県では, 「最重要保護生物」に指定されている (須田, 2001). 伊藤文紀博士 (私信) は, 瀬戸内海の小島の海浜でよく見られるとしている. これは寄主のシロスジフトハナバチが同じ環境でよく採集されることと符合する. ほかに, 本種の産地として, 前田 (2010) は南西諸島の与那国島をあげているが, この島産のものは中国, 台湾, 東南アジア, インドに広く分布するヒマラヤルリモンハナバチ *Thyreus himalayensis* (RADOSZKOWSKI) とされている (多田内・村尾 (編), 2014).

島根県ではこれまで丹念に行われてきた調査でも採集されたことはなかったが, 今回初めて隠岐郡知夫里島においてトウテイランの送粉昆虫の調査中に採集された. 詳細は以下の通りである. 採集地は同島の海岸部沿いの道路の脇の崖で付近で生育していたメハジキで2014年8月26日に1♂が大對によって採集された. 寄主と見做されるシロスジフトハナバチは見られなかったが, ルリモンハナバチとスジボソフトハナバチがメハジキで同時に多数採集された. 採集されたウスルリモンハナバチは老齢らしく, 翅の破損が著しかった.

本調査は平成27年度生物資源科学部学部長経費 (ミッション推進研究) によって行ったことを明記し, 関係各位に深謝する. また, 文献についてご教示をいただいた杉浦直人博士 (熊本大学理学部, 熊本) と須田博久氏 (佐倉) に厚くお礼を申しあげる.

<sup>1)</sup> 島根大学生物資源科学部

<sup>2)</sup> 松江市東津田町2168-218

引用文献

- 原田裕康, 1987. 岡山県のハチ類. 蜂友通信, (27): 96-97.
- , 1993. 瀬戸内海島嶼調査報告・・・膜翅目. みちしるべ, (15): 69-71.
- 幾留秀一・中村慎吾, 1995. 広島県のハナバチ相(2) - 江の川流域を中心に - 比和科学博物館研究報告, (33): 49-60.
- 伊東憲正, 2003. ハチハエカメムシウオンテッド. 株式会社地域環境計画 *Newsletter*, (32): 6.
- 伊藤文紀, 2008. ウスルリモンハナバチ *Thyreus centrimacula* を四国から記録. 中国昆虫, (22): 45.
- 小橋理絵子, 2004. 倉敷市でウスルリモンハナバチを採集. しぜんくらしき, (51): 17.
- LIEFTINCK, M. A., 1962. Revision of the Indo-Australian species of the genus *Thyreus* PANZER (= *Crocisa* JURINE) (Hym., Apoidea, Anthophoridae) Part 3. Oriental and Australian species. *Zool. Verhand.*, (53): 1-211. 3 pls.
- 前田泰生, 2010. 珍しいむしが集まる“採集のツボ” - ルリモンハナバチの例 - すかしば, (58): 35-38.
- MAETA, Y., K. GŌKON & R. MIYANAGA, 2015. Revised species names of Japanese cleptoparasitic bees and their hosts, with additional new host records (Hymenoptera: Apoidea). *Jap. J. Syst. Ent.*, **21**: 299-303.
- , ——, N. SUGIURA & R. MIYANAGA, 1996. Host records of cleptoparasitic bees in Japan (Hymenoptera, Apoidea). *Jap. J. Ent.*, **64**: 830-842.
- 村尾竜起, 2009. ウスルリモンハナバチ福岡県に産す. 中国昆虫, (23): 60.
- 長瀬博彦, 1981. 鹿児島県の蜂. *Satsuma*, **30**: 253-287.
- 須田博久, 2001. ウスルリモンハナバチ (千葉県編「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック - 普及編 -」所収). p. 103. 千葉県.
- SUGIURA, N. & T. GOMI, 1991. A new locality of *Thyreus centrimacula* (PÉREZ) in Japan (Hymenoptera: Anthophoridae). *Jpn. J. Ent.*, **59**: 821.
- 多田内修・村尾竜起(編), 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 479 pp. 文一出版社. 東京.
- 田口英哉, 1986. 広島県付近の膜翅類(第一報). 広島虫の会会報, (25): 21-24.
- 田中伸一・田中 肇, 2008. 山口県の有剣類. 山口むし, (7): 112-129.